

無名兵士の軍事郵便から「戦争を学ぶ」実習 文学部・新井ゼミ

新井勝敏ゼミ(文学部人文学科、2～4年次23人)では、第二次世界大戦中、一人の無名兵士が戦地ビルマから家族に送った軍事郵便を読むことで「戦争を学ぶ」実習を行っている。始めて3カ月余の7月17日、生田キャンパスで送り主の家族との対面が実現した。ゼミ生たちは文面では分からなかった兵士の生死、出征前の様子、戦時中の生々しい状況を聞き、今後の実習への貴重なステップとなった。

家族を探し当て対談



▲小泉富美子さん、仲道敬子さん(正面の右2人)の話を聞くゼミ生と新井教授



▲博美さんから家族に送られた軍事郵便の数々。絵はがきもある

教材となっている手紙は、軍事郵便を収集している新井教授が骨董品仲買人から購入した約100通余りのハガキ。送り主は「小泉博美」とある。

「本当に皆様が御元気で何より安心いたしました。何しろ野戦の為郵便局の開設も出来ぬ位の進撃でした」「目下当地はお彼岸の今日、百度(注・カ氏)以上の炎熱にて毎日酷暑と戦って居ります」「戦地はつらいです。然しもっともつらいのは銃後の皆さん達です。銃後の健全な護りには誰も感謝しない者は一人もありません」(手紙から抜粋)。

ゼミ生たちは、半世紀以上も前のハガキに記された旧漢字や崩し字と“格闘”、黒く塗られた伏せ字につまずきながらも一通一通、丹念に読み進めていった。4年次の本山創造くんが宛名の住所(川崎市久本)を訪ねてみると、博美さんの実妹、小泉富美子さん(80)と仲道敬子さん(75)が健在であることが判明。この日の

対面となった。

富美子さん、敬子さんによると、博美さんは大正9年川崎市の生まれ。旧制中学卒業後、米穀販売所で経理の仕事をし、開戦の昭和16年に入隊・出征。同19年、ビルマのインパール作戦で戦死した。お二人は博美さんの遺影を持参し、故人の思い出に時折、涙ぐみながらさまざまなエピソードを披露。学業は優秀で、優等生として表彰され辞書を贈呈されたことや戦死の知らせのあとも何通も郵便が届き、戦後、博美さんの両親は辛い思い出を断ち切るため、焼却した郵便もあったと明かした。そして「皆さんは人生の中で一番、輝いている時期にいる。平和に感謝し、今を一生懸命生きてくださいね」と、25歳の若さで亡くなった兄の面影をゼミ生たちに重ねて呼びかけた。

聞き終えたゼミ生は「文面でも感じたが、家族思いの博美さんの人物像が浮かび上がった」(荻原悠司くん・3年)「軍事郵便は、教科書に載っていない、一般の人々にとっての戦争を伝えてくれる。お二人の話でさらに実感した」(上竹奈緒さん・3年)と話している。

新井教授は「近・現代史から『戦争を学ぶ』ことは、関係者から聞き取りができるという大きな利点がある。本日の貴重な対面を機に学生たちは、一層深く手紙を読み込むのでは」と今後の展開を期待している。

【ニュース専修8月号5面】

外食産業の誕生とビジネス論 日本フードサービス協会 横川竟会長が講義



経営学部のマーケティング特殊講義(担当＝佐藤康一郎講師)では、(社)日本フードサービス協会による提供講座を開講、毎回さまざまな講師から激変するフードビジネス業界の実態を伝えてもらっている。

7月11日には同協会会長の横川竟氏による講義が行われた＝写真。「すかいらーく」を創業し、現在はジョナサン会長である横川氏は日本の外食産業のパイオニアといえる。「食の安全性」が注目されるフードビジネスの今後の可能性を熱く語り「顧客のニーズをキャッチして時代の風を読んだビジネスを展開することが成功の鍵」と400人を超える受講生にビジネス論を披露した。

後期には吉野家ディー・アンド・シー代表取締役社長の安部修仁社長の講義も予定されており、ますますホットな授業が展開されそうだ。

【ニュース専修8月号5面】

日本ユニシス見学会 OB・OGと懇談も実現



▲梶原正彦秘書室担当課長から説明を受ける学生たち



▲先輩(左)に積極的に質問

日本ユニシス(株)提供による経営学部の「情報管理特殊講義」の特別版として、同社の見学会が7月23日に実施された。これは島田精一代表取締役社長が最初の講義で約束したことが実現したものだ。見学会後の懇談会には、OB・OG11人も駆けつけ、後輩たちと談笑したり、さまざまな質問に丁寧に答えてくれた。2年次の前川美恵子さんは「先輩たちのお話で同社への興味がますます強くなりました」と感想を語り、竹村憲郎教授は「OB・OGと触れ合ったことで『職業・将来』の意識が芽生えたのではないか」と話した。

【ニュース専修8月号5面】

学術講演会 法学部 特別講演会



岡田信弘北海道大学大学院教授

選挙制度をめぐる憲法論

憲法の基本問題をテーマにした「特別講演」(法学部司法試験対策委員会主催)が6月30日、神田キャンパスで講師に岡田信弘北海道大学教授(司法試験審査委員)を迎えて開催された＝写真。

テーマは「選挙制度をめぐる憲法論」。岡田教授は、選挙権についての憲法からの考察を約1時間半にわたって論じ、学生約300人が熱心に聴講した。



李根植前韓国行政自治部長官

韓国地方自治の現状と課題

7月4日、神田キャンパスで法学部の学術講演会が、学生約480人が出席して開かれた。「韓国地方自治の現状と課題」-日韓地方自治の比較的視座から-を演題に、講師は前韓国行政自治部長官で7月から10月まで本学の研究員となった李根植氏＝写真。

中央集権体制が強い韓国で地方自治の民営化が進められているが、李氏はその現状と展望を1時間半にわたって講演。通訳は韓国地方自治学会会長の姜瑩基氏(前国立忠北大学校社会科学大学学長・行政大学院長)が務めた。

【ニュース専修8月号5面】

英語の学習10人10語 第3話 英語劇で生きた英語を 岡田もえ子（商学部講師）

皆さんは英語の勉強を堅苦しいものと思いませんか？今日は『趣味が高じて英語力アップ』というお話をしましょう。

私は昔から演劇やミュージカルが大好きでした。劇の本場と言えばご存知ロンドンやN.Y.。つまり英語圏。そう、ブロードウェイの舞台を見て感動するためには英語が聞き取れなくてはなりません。「英語のミュージカルを見て分かるようになりた〜い！」と言うのが私の高校生の頃の夢でした。

まずはお気に入りのミュージカルの英語版を手に入れ、テープが擦り切れるほど何度も聞きました。もちろん聞きながら歌いましたよ。歌詞カードなんて付いていませんから必死で聞き取り真似をして歌いました。これはリスニングにはもちろん、英語のリズムをつかむのに最適でした。

歌の次はセリフ。劇と言うのは映画やテレビよりも役者さんが明瞭に、しかもやや大きめにしゃべります。これを聞き取り真似することは、発音やイントネーションなどの点でスピーキングに多いに役立ちました。役者さんは感情を入れて演技をしますが、同じセリフでも場面によって言い方が変わったりします。例えば“What are you doing here?”と言うセリフも、“What”を強調して発音するのとyouを強めるのではニュアンスや伝えたい内容が違うのです。

さらに、劇にはさまざまな場面があります。フォーマルなパーティーの場もあれば友達同士、冗談を言って笑い転げるシーンもあります。つまり正式な場所での丁寧な言葉遣いも学べますし、何気ない日常会話も学べるのです。ちょっとした言い回しの違いを知ることによって、表現力も豊かになります。

強い動機付けがあれば、手段は幾らでもあります。皆さんも趣味を通して英語力アップを目指しては？

【ニュース専修8月号5面】